

契約法の経済分析

法と経済学研究

no.5

麻生良文

内容

- 契約法の意義
- 契約違反に対する救済方法
- 最適な救済方法

契約法の意義

- XがYにレストランの建設を依頼
 - a円支払う
- 即時的取引とは異なる
 - 完結までに時間のかかる交換→リスクの存在
 - xx月 xx日までに建物の完成を依頼
 - 偶発的事態によって期日までに完成できない
 - 自然災害（台風，地震），建設資材の急騰，人手不足，能力不足
 - 建設会社の財務状況の悪化
 - 依頼主の支払能力の悪化
 - 公的規制の変化
 - 労働者のストライキ

- リスクを処理する適切なルールの提示が契約当事者間の交換の利益を支援する
- Example
 - 依頼人(principal)が10の投資を依頼
 - 代理人(agent)が投資を実行
 - 代理人の選択肢
 - 協力(投資を実行)
 - 非協力(着服する)
 - 代理人が協力すれば, グロスで20の利益が実現
 - ネットで10の利益
 - 10の利益をprincipalとagentで分配できる
 - 代理人が非協力の場合
 - 投資は行われぬ(利益は0)
 - 依頼人は10の損失, 代理人は10を着服

契約法の無い世界

		Player2 (agent)	
		cooperate	non-cooperate
Player 1 (principal)	Invest	(5,5)	(-10,10)
	not invest	(0,0)	(0,0)

Pareto効率的

Nash均衡

principal が投資して, agentが着服 (non-cooperate)する場合の payoff はゼロサム

agentの支配戦略は non-cooperate

このゲームの解は not invest と non-cooperateの組み合わせ

→ 囚人のジレンマ

契約法のある世界

Nash均衡は
Pareto効率的に

		Player2 (agent)	
		cooperate	non-cooperate
Player 1 (principal)	Invest	(5,5)	(5,-5)
	not invest	(0,0)	(0,0)

契約法 → payoffを変える
Agentが着服した場合、契約法によってprincipalを救済

契約違反が生じた場合、救済ルールを定めることにより、効率的な資源配分が実現する

違反が発覚した後の所得分配を問題にしているのではなく、事前の資源配分を問題にしていることに注意

なぜ交渉で解決しないか（取引費用）

取引費用

- 完備契約
 - 全ての偶発的事態を織り込んだ契約
 - Pareto効率的
 - 取引費用の存在
 - 全ての偶発的事態を想定しての契約は不可能
- 不完備契約
- 契約法の意義

契約違反に対する救済方法

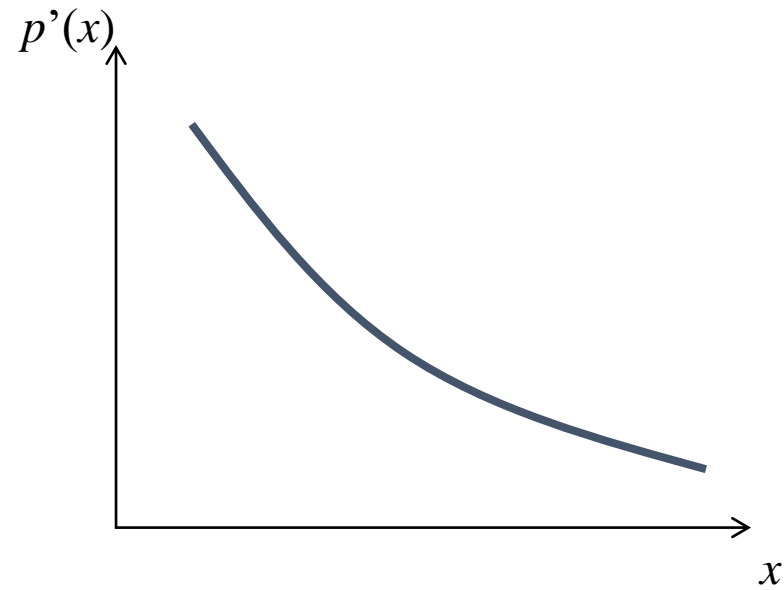
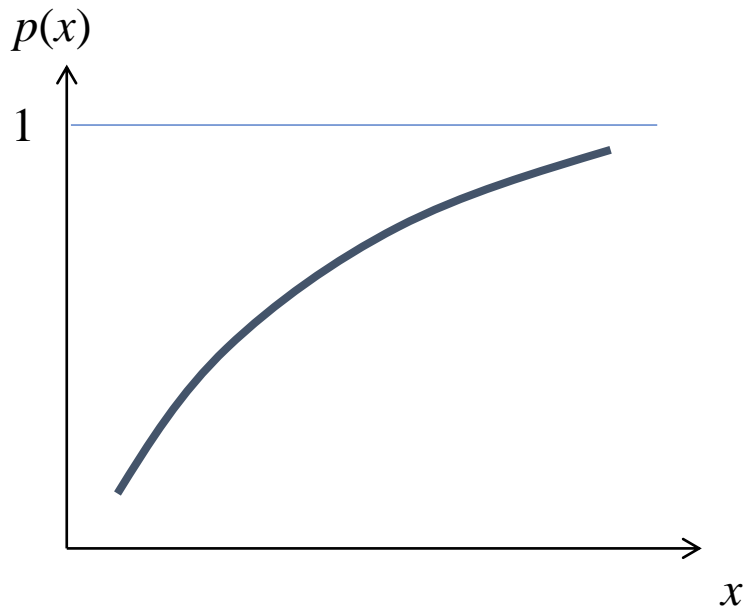
- 当事者同士による解決
- 金銭的賠償
 - 補償的支払い（通常）
 - 懲罰的支払い
- 特定履行(specific performance)

最適な救済方法

- X（建設会社）
- Y（レストラン経営者）
- Y→X 新しいレストランの建設を依頼。Yは完成予定日を見越して、広告、人材募集、食材の発注を行った。
- Xの行動
 - 予防的支出を行う（ex. 時間外労働など）ことで契約履行確率を増加させることができる
- Yの行動
 - 投資活動（人材募集、広告、食材の発注等）yの収益は、契約が履行された場合と不履行の場合で異なる
- 社会的利益を最大にするような救済方法は
 - 救済方法が(x,y)に影響を与える
 - 効率的な(x,y)を実現させるような救済方法はどのようなものか

Xの行動

- x : 予防的支出 $\rightarrow p$: 契約履行確率

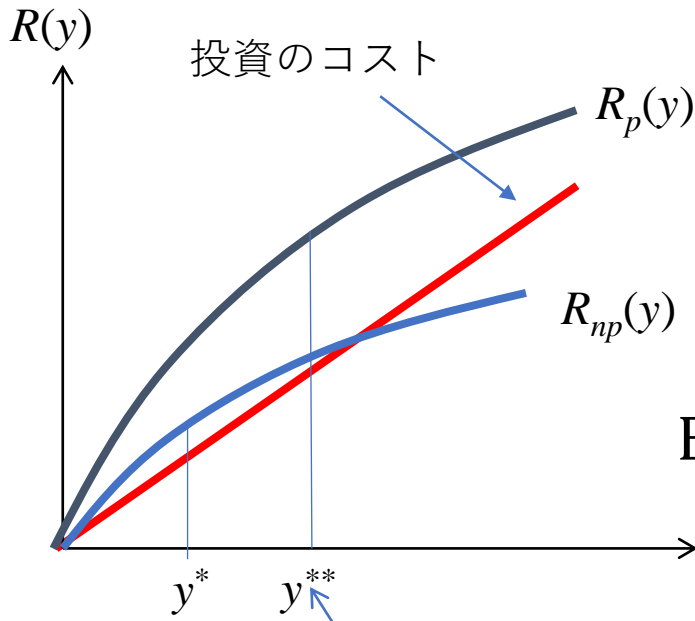


$$0 \leq p(x) \leq 1$$
$$p'(x) > 0, p''(x) < 0$$

x : 1単位の費用=1

Yの行動

- y : 投資水準 → 収入 $R(y)$ の増加



単純化のため、状態は2つ

契約が履行された場合 $R_p(y)$

契約が履行されなかった場合 $R_{np}(y)$

y 投資の水準 : 1単位の費用=1

$$E R = p(x)R_p(y) + (1 - p(x))R_{np}(y)$$

契約履行の場合の最適な y

契約不履行の場合の最適な y

効率的な (x,y)

$$\max V = p(x)R_p(y) + (1 - p(x))R_{np}(y) - x - y$$

1階の条件

$$\begin{aligned} p'(x)[R_p(y) - R_{np}(y)] &= 1 \\ p(x)R_p'(y) + [1 - p(x)]R_{np}'(y) &= 1 \end{aligned}$$

x の限界収入の期待値=1

y の限界収入の期待値=1

1は x,y の限界費用

損害の尺度

- expectation damage 期待利益の損害賠償
 - $D_e = R_p(y) - R_{np}(y) = [R_p(y) - y] - [R_{np}(y) - y]$
 - 契約が履行されていれば実現したであろう利益を補償
- reliance damage 信頼利益の損害賠償
 - $D_r = [R_{np}(y_0) - y_0] - [R_{np}(y) - y]$
 - y_0 : 契約しなかったら実行していたであろう y の水準
 - $R_{np}(y) - y$: 実際の利益
- opportunity cost 機会費用
 - $D_o = \pi_0 - [R_{np}(y) - y]$
 - π_0 profit of the best alternative

Xの行動

$$\begin{aligned} \min \quad & x + [1 - p(x)]D \\ \text{f.o.c.} \quad & 1 = p'(x)D \end{aligned}$$

効率性の条件

$$\begin{aligned} p'(x)[R_p(y) - R_{np}(y)] &= 1 \\ p(x)R_p'(y) + [1 - p(x)]R_{np}'(y) &= 1 \end{aligned}$$

損害賠償ルールが次の場合、効率性の条件が満たされる

$$D = D_e = R_p(y) - R_{np}(y)$$

Yの行動

$$\pi = pR_p(y) + (1 - p)[R_{np}(y) + D(y)] - y$$

f.o.c. (for given x)

$$pR_p'(y) + (1 - p)[R_{np}'(y) + D'(y)] = 1$$

効率性の条件

$$p'(x)[R_p(y) - R_{np}(y)] = 1$$

$$p(x)R_p'(y) + [1 - p(x)]R_{np}'(y) = 1$$

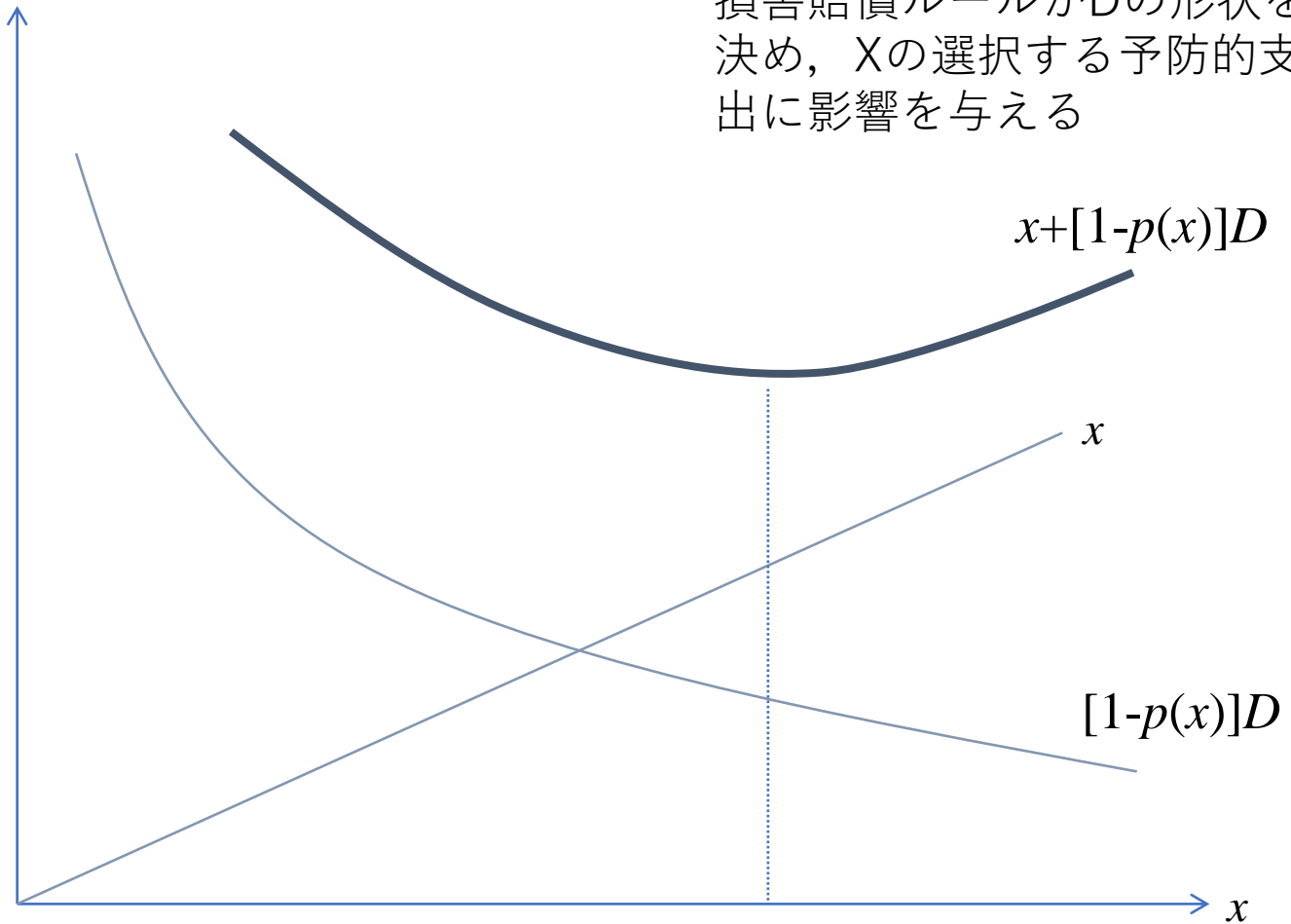
損害賠償ルールが次の場合、効率性の条件が満たされる

$$D'(y) = 0$$

cost

Xの行動

損害賠償ルールがDの形状を決め、Xの選択する予防的支出に影響を与える



Dが効率的な水準を満たすように決まっていれば、 x^* は効率的。Dが過大なら x^* も過大。特に、Dが y の増加関数の場合、 y が過大に決まると、 x^* も過大に。

MR

Yの行動

$D'(y) > 0$ なら、損害賠償が y の支出水準の増加関数なら、過剰な投資が実施される

